氏名	**高口真一郎**
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙第17号
学位授与の日付	昭和37年6月6日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	**関節リウマチに於けるフェニールブタゾンの定量的研究**
論文審査委員	教授 児玉俊夫　教授 砂田輝武　教授 陣内伝之助

学位論文内容要旨

フェニールブタゾンの血中濃度測定法としては従来用いられていたP ulver 氏法よりも Burns 氏法の方が優秀であることを証し得たので，私は Burns 氏法により兎及びヒトに於けるフェニールブタゾン単独及び重曹・プレドニゾロン・アミノピリン併用の際の血中濃度を測定した。かくて兎では30分後，ヒトでは6時間後に血中濃度の最高値が得られ，又兎では4〜5時間後に血中濃度が殆んど零になるのに反し，ヒトでは24時間後にも尚かなりの血中濃度を保ち，24時間毎連続投与により著明な蓄積作用があることを認めた。又疼痛性疾患主として関節リウマチに対するフェニールブタゾン単独及び他薬剤との併用投与を行い，その臨床的効果を主として自覚症状改善の面より追究した。その結果有効例は約70%であり，症状進行せるもの及び比較的高齢のものにより有効であった。それ故に症状を選べば毎日1回，100〜200 mg の投与にて充分効果をあげることが出来るといえよう。

（昭和34年4月　日本リウマチ協会雑誌第1巻第3号掲載）

論文審査の結果の要旨

高口真一郎提出の「関節リウマチに於けるフェニールブタゾンの定量的研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の如くである。

まず Burns 法が血清 0.5 ccで充分正確なフェニールブタゾンの血中濃度を定量し得ることを確めた。そしてフェニールブタゾン単独及び重曹，プレドニゾロン，アミノピリン等併用の場合の血中濃度をヒト及び家兎につき経時的に測定した。さらにヒトに於ては臨床的症状との関連もみている。

わが国の関節リウマチの患者の病態は欧米のそれと諸種の点で異っているが，特にサリチル酸やフェニールブタゾンに耐久力がない。著者の研究は臨床時に関節リウマチの治療に寄与するところが大である。

以上のように本研究は学術上新知見を加えたもので，医学博士の学位を授与するに値するものと認める。